



川口市内観光ルートマップ

総合案内版

川口市内観光ルートマップ 全コースガイド

1 川口駅東口コース

埼玉の玄関であり、市内の商業中心地でもある川口駅東口周辺を散策します。20年ほど前に完成した駅前のペデストリアンデッキは街の景色を近代的に変えました。しかし、駅からほど近い場所には、古くから信仰を集めた寺社が残ります。徳川将軍が通った日光御成道沿いには古い商家の店構えも。最新設備と歴史遺産が共存する珍しい風景。興味深い駅前探訪が楽しめます。



キュボ・ラ

2 川口駅西口コース

荒川を歩き、河川敷からの眺望を堪能します。その昔、江戸との舟運で産業を活性化させ、鉄物づくりに必要な砂が川から取れるなど、荒川は川口発展の土台となりました。コース上には新しい街が2つあります。駅西口にあった国研究所は文化施設に、80年にわたり操業されたビール工場は、商業施設・美術施設等を持つ複合空間として再生され、人びとをつなぎています。



荒川運動公園

3 元郷・領家コース

埼玉高速鉄道の開業、超高層マンションの竣工と、ここ10年ほどで景色が様変わりした元郷・領家地区。とはいえ芝川が流れ、一帯は工場が多く、ものづくりの街・川口の原風景をとどめています。足を延ばせばレンガ造りの洋館と和館の「旧田中家住宅」(国登録文化財)が見られます。ぜひ立ち寄りたいポイントです。



エルザタワーと鉄物工場

4 西川口・青木町平和公園コース

新しい駅ビルができ、イメージアップが進む西川口。東口の駅前通りでは地域ぐるみで緑化活動が行われており、街路樹や花壇が通りを彩ります。市民スポーツの拠点が青木町平和公園。充実した設備もさることながら県立競技場の聖火台レプリカなど、散策するだけでも楽しめます。電車でひと駅の区間ですが、歩かなければ見られない景色に、きっと出合えることでしょう。



青木町平和公園

5 芝コース

マンモス団地や戸建てが並ぶ芝地区は、昭和10年代まで水田地帯でした。その後、都市化が進みましたが、道端には新申請の石碑やお地蔵さんといった昔の信仰を伝える建造物が残ります。見どころは徳川家の庇護を受けた古刹・長徳寺。広い境内は凧と空気に包まれています。駅に戻る道は、歩きながら時代をさかのぼっているような感覚に。芝の奥深さが実感できます。



長徳寺

伝統産業の街 川口

鉄物

川口の鉄物って?

埼玉県川口市の玄関、JR川口駅の銘板は市が誇る地場産業の鉄物製。市内の善光寺裏手で組み立てを行った、日本初の蒸気機関車・善光号がモデルです。かつての川口市は、溶解炉「キユボラ」の煙突が林立した正真正銘の鉄物の街。映画に取り上げられ、街のシンボルとして長くイメージされました。現在キユボラを見ることができます。工場は十数軒。代わって高層マンションが林立します。



良い製品は、職人の経験と技能が生む

鉄物は、緻密な肌をした鈍く輝く独特な質感ですが、その感覚を覚えると、オブジェや街灯、マンホール、欄干、歌でヒットしたタイ焼き用鉄板など身近なところで存在を確認できます。鉄物とは、鉄を含む鉱石を1500度を超す高温で溶かし、砂や金属で作られた型に流し、冷えて固まつた製品のこと。真っ赤な鉄の塊「湯」は、複雑な形状の型でも吸い込まれるように自在に流れ込み、形を作り出しています。その技術は、人類が火の利用を知った原始時代に遡り、土器作りの炎から溶け出た金属がくぼみなどに入つて固まることをヒントに、生み出されたといいます。

鉄物の製造に不可欠なのが「鋳型」です。でき上がる製品と同じ模型を木や金属、合成樹脂で作り、枠に入れて周りを砂で固め、最後に模型を抜き、できた凹みに溶かした金属を流し込むのです。とはいって、1500度を超す溶けた金属はどうしても鋳型を壊さずに形成ができるのでしょうか。それは金属の表面張力が働くからで、おまけに粘度が極めて低いために砂に浸み込むことなく、細かな形状でも隙間から滑り込むように入り込み、精密な形を作り出すのです。

現在、川口市内で生産される鉄物の多くは、産業機械用をはじめ、自動車や船舶用の基幹部分の部品として活躍するほか、景観材や日用品など身近な場所にも用いられています。



溶かした鉄の塊は、マグネットによって、瞬時に断熱力と機

地域を支えた歴史ある産業

川口の鉄物の歴史

川口市の鉄物の起源は諸説ありますが、鍛冶師や鉄物師の名前が書かれた、長徳寺の和尚の日記「寒松日曆」や、鋸工作を描いた「江戸名所図会」などから、遅くとも江戸時代に始まったと推測されます。当時、荒川や芝川付近から鉄物に適した川砂や粘土が採取でき、また水運の便に恵まれたことや、大消費地江戸に隣接していたことなどの好立地条件で、逸話の聖火台は、青木町平和公園にかかります。

当初は寺社の奉納物が主でしたが、やがて、薄物といわれる農具や、鍋や釜、鉄瓶などの日用品の鋳造方法が研究され、19世紀にはその技術が譲れられ、江戸に増え続ける火災の防火用に、天水鉢の製作依頼に応えたといいます。明治以降は戦争の好況にも支えられ、技術、生産高とともに川口の鉄物は飛躍的に成長。昭和30年代には、鉄物工場や関連する工場などが軒を連ね、全国への鉄物生産高を跨り、鉄物の街の名を上げました。

全国シェアの割を占めたという「福禄ストーブ」の開発は、川口の鉄物を世に広めた事例。先人たちが築いた薄物の鋳造技術が日の目をみるようになりました。国立競技場の聖火台作りも川口の逸話のひとつ。川口市の鉄物業界が一丸となった事業でした。

活躍する鉄物

鉄物は、職人の熟練した技と優れた勘、科学的な技術が交わってできるハイテクな造形物です。他の加工方法とは異なり、接着工程を省いた一体成型ができるので、費用の節減ができるばかりか製品の小型化も可能となり、意匠もなかなかの美しさを保ちます。

鉄物製品の用途でもっとも多いのが、工業用製品です。さびにくく、

振動や騒音を吸収してくれるというさまざまな利点があり、自動車のエンジン部品や原子炉のターピンのほか、パワーショベルなどの建設機械などと用途は広く、さらにマンションや門扉、街路灯、美術品など生活のなかにもいきついています。

近年、軽くて熱伝導が良く、無毒性、非磁性、リサイクルできるなどの利点を持つ鉄物製品も次々と生まれ、産業用以外においてもスポーツ器具や調度品ほか、いろいろな分野に進出。なかでも、軽さや薄さ、味を生かす工夫をした調理用品など、新たな技術や製品の開発・技術の伝承など、鉄物にかかる川口の職人魂は今なお健在です。



東川口駅前のモニュメントも、川口の景観的鉄物製品。

老舗が多い商店街は、7月の伝統行事で七夕まつり

冬には、冬を飾る特なイルミネーション

りもみじ新門の農家もあ

市内には花に囲まれる商店街。

市内には花に囲まれる商店街。